

出前授業・模擬選挙	模擬議会・議員との交流	大学・若者グループ等との交流	【参考】 学校・民間団体が主体の取組
地方公共団体主体	他の機関(税務署)と連携	若者議会・こども議会	座談会等
小学生等	中学生	高校生	大学生・短大生・高専生
		特別支援学校生	若者層(10~20代)

①松山市（愛媛県）（人口503,865人）※令和5年1月1日現在

選挙コンシェルジュ等による主権者教育の推進

■取組の概要

- ・地元の学生を「選挙コンシェルジュ」に任命し、さらに主権者教育や映像制作等の専門分野を持つ民間団体を「選挙クルー」と認定し、選挙と連携して主権者教育の取組を実施。
- ・「出前授業・模擬選挙」、「生徒会選挙プロデュース」、児童館における「おもちゃ総選挙」等の取組を積極的に展開している。



実施概要

実施年度	平成25年度から毎年実施
対象者	中学生・高校生（模擬選挙等、生徒会選挙プロデュース） 幼児・小学生（おもちゃ総選挙）
参加者数（令和4年度）	模擬選挙等：高校11校、大学1校（延べ約4,000名） 生徒会選挙プロデュース：3校 おもちゃ総選挙：約30名
事業規模（予算）	約143万円（令和5年度）

■実施の経緯

<取組を開始するに至った経緯>

- ・平成25年7月に全国で初めて大学内に期日前投票所を設置。その後、大学生からの「大学生も行政に参画したい」等の意見を踏まえ、平成26年2月に地元大学の先生から選挙啓発活動に関心を持つ学生を紹介していただき、選挙コンシェルジュ1期生4名を任命。その後、18歳選挙権の導入もあり、若年層への選挙啓発が必要との認識のもと、積極的に活動している。

■実施の体制

<庁内の実施体制>

- ・啓発担当リーダー：1名（兼任）啓発計画の策定、推進
- ・啓発担当職員：5名（兼任）主権者教育の実施、選挙コンシェルジュとの協働、SNSの運用等

<外部との連携>

- ・選挙コンシェルジュ：21名（大学生20名、専門学校生1名）と協働
- ・選挙クルー：6団体と協働

■取組の効果・成果

- ・学生が模擬選挙等で話すことで、聞く側も同世代として響く部分が多く、市選管と選挙コンシェルジュや選挙クルーとの連携によってそれぞれの強みを生かした取組が実施できている。
- ・選挙コンシェルジュとしての活動は、高校生から思った以上に反応が返ってくるため、伝えることにやりがいを感じている。



<これから取組を始める団体へのメッセージ>

学生のコンシェルジュが語りかけることで、やわらかい雰囲気になり、同世代の大学生・高校生に響きやすくなります。大人はそれに乗っかって行くくらいの気持ちで。学生やNPOとつながるポイントは、彼らの話をよく聞いて一緒に取り組むことです！

★より詳しい情報はこちらへ 【松山市「選挙」】

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/senkyo/index.html>



■取組のステップとポイント

① 事前準備

【事前啓発】学校への案内

- ・市内の小・中・高校に広報誌Votersを配る際に、選管が提供できる主権者教育のチラシを同封。
- ・生徒会選挙実施のため投票箱や記載台を借りたいと連絡のあった学校にも主権者教育のメニュー表を渡す。

【実施1か月半程度前】希望事項ヒアリング

- ・学校から依頼を受けたら、可能な限り学校に選管職員が赴き、主権者教育の実施にあたって学校側の希望（日時、場所、外部講師（選挙コンシェルジュ、選挙クルー等）の参加可否、授業のマスコミへの公開可否等）をヒアリングする。

【実施1か月程度前】講師の調整・資料の作成

- ・選挙コンシェルジュの授業が可能な場合、選挙コンシェルジュの参加希望者を調整し、協働で発表資料を作成。
- ・選挙コンシェルジュ自身が模擬選挙の候補者役となる場合もある。

【実施1週間程度前】資料の完成・報道対応

- ・完成した資料を学校と共有。
- ・マスコミに公開する場合は、報道資料を発出。

<当日の流れ>

- 1 模擬選挙
選挙コンシェルジュが候補者役となるか、総務省の動画教材を活用して模擬選挙を実施。時間があれば開票も体験。
- 2 選挙クイズ・豆知識
不在者投票や期日前投票等、当日投票が難しい場合に投票できる制度を周知し、将来の投票行動につなげる。
- 3 メディア等への発信
学校側が希望した場合、模擬選挙の様子をマスコミに公開。実施後は市選管のSNSに概要を掲載。

アンケートの実施

- ・担当教員にアンケートを実施。
（令和5年度から）

② 取組実施

③ 実施後

【ポイント】

- ・学校の事業計画に入れてもらえるように、前年度のうちから定期的に学校へ周知を行っている。
- ・学校の状況に合わせて選べるよう、10分、20分、1時間と時間ごとの主権者教育のメニューを提示する。

【ポイント】

- ・教員には外部講師が授業することへの不安や抵抗感があることが多いため、可能な限り選管職員が事前に訪問し、授業内容を伝える。
- ・外部講師を希望しない場合は、選管職員が対応したり、総務省の動画教材を使用している。
- ・希望日が選挙期間中等選管職員が多忙な場合は、選挙クルーに対応を依頼する等、可能な限り学校の要望に答えている。



選挙コンシェルジュによる授業・模擬選挙の様子

【ポイント】

- ・候補者の政策にメリハリを利かせ、判断しやすいようにする。
- ・選挙コンシェルジュが候補者役を努める際は、必ず「この発表は模擬選挙のためのものであり、実際の彼らの主張ではない」旨を伝える。
- ・メディアへの発信やSNSでの発信を行うことで選挙啓発につなげることが重要。
- ・発信に当たっては、生徒の顔が映らないように工夫するとともに、記事は事前に学校に確認してもらうようにする。

■取組のステップとポイント

① 事前準備

【事前啓発】学校への案内

- ・市内の小・中・高校に広報誌Votersを配る際に、選管が提供できる主権者教育のチラシを同封。
- ・生徒会選挙の実施のため投票箱や記載台を借りたいと連絡のあった学校にもメニュー表を渡す。

【実施1か月半程度前】学校からの依頼

- ・学校から依頼を受けたら、作成物の希望（選挙ポスター、選挙公報、選挙入場券等）をヒアリングする。
- ・特に選挙ポスターは作成と確認に時間がかかるため、告示日等スケジュールの確認も合わせて行う。
- ・投票箱や記載台の借用を希望する学校がかぶる日ももあるため、備品の在庫の状況により調整。

【実施半月程度前】選挙ポスターの作成

- ・立候補者が決まったら、生徒の写真と氏名、選挙ポスター等に記載するフレーズの送付を受け、選挙ポスターの案を作成し学校に確認してもらう。

【実施1週間程度前】資料の完成

- ・資料を完成させ、学校の希望により、PDFまたはカラー印刷したものを提供。
- ・投票箱や記載台等の備品を受け渡し。



選挙入場券のイメージ

<当日の流れ>

- 1 生徒会選挙
必要に応じて選管職員が訪問し、生徒会選挙の実施を支援。立候補者演説の合間に時間をいただければ選挙啓発を行う。
- 2 開票
学校側が希望した場合、投票用紙計数機を持ち込んで開票作業の支援を行う。

アンケートの実施

- ・実施後に担当教員にアンケートを実施。（令和5年度から）

② 取組実施

③ 実施後



選挙ポスターのイメージ



選挙公報のイメージ

【ポイント】

- ・パワーポイントで選挙ポスターのレイアウト・様式を作成しておき、写真を貼り替え、名前等テキストを置き換えるだけで、簡単にポスターができるようにしておく。
- ※色味等10種類から生徒が選択できる。
- ※学校側で立候補者の決定から投票まで1週間程度しか期間がない場合が多く、確認も必要なため、選挙ポスターは数日で作成する必要がある。

【ポイント】

- ・1コマのうち、立候補演説と投票で10～20分ほど時間が余ることが多く、そのすき間時間を出前講義で埋められるとありがたいとの声がある。
- ・選挙啓発の際は、生徒会選挙と実際の選挙の類似点を示し、「投票先を考えることは社会を考えるよい機会となる」ことや、「生徒会選挙の主役は立候補者だけでなく生徒全員であること」を伝えるようにしている。

■取組のステップとポイント

① 事前準備

【実施2か月前】児童館と調整

- ・ 選管から児童館に開催を打診。
- ・ 実施場所、時期の協議、児童館で購入予定のおもちゃのリストを受領。

【実施1か月半程度前】参加者調整・企画検討

- ・ 選挙コンシェルジュに参加希望を募る。
- ・ 選挙コンシェルジュが企画実施案を作成。
- ・ 選管が児童館訪問、詳細検討。

【実施半月前】開催案内

- ・ 報道発表。案内チラシの作成、児童館への掲出を依頼。

【実施1週間前】飾りつけ等の各種準備

<当日の流れ>

- 1 出前講座
〈小学校就学前グループ向け〉
 - ①紙芝居（徳島県選管作成のもの）の読み聞かせ
 - ②おもちゃ総選挙の立候補おもちゃを説明〈小学生グループ向け〉
 - ①首相、知事、市長の仕事を伝える
 - ②希望する架空の校長先生を相談して選ぶ
 - ③おもちゃ総選挙の立候補おもちゃを説明
- 2 投票体験
児童館から提示してもらった6つのおもちゃから、いちばん欲しいおもちゃを投票してもらう。
〈小学校就学前グループ向け〉
買ってほしいおもちゃの背景の色紙を選んで投票
〈小学生グループ向け〉
模擬投票用紙（ユポ紙）を使って記入し投票
- 3 開票体験
子どもたちが得票数を数え、1位のおもちゃを決定。
当選したおもちゃのポスターを掲示板からはがし、おもちゃ総選挙の噂を聞きつけたサンタ扮する学生に渡し、後日児童館にプレゼントすることを約束する。

② 取組実施

ヒアリングの実施

- ・ 児童館の職員にヒアリングを行い、次年度につなげる。

③ 実施後

【ポイント】

- ・ 実施時期は、おもちゃをサンタさんが届ける演出としたことを踏まえ、10月下旬～11月中とした。
- ・ ただの人気投票とせず、投票結果が形となって現れることが重要であるため、事前に児童館から実際に購入可能なおもちゃをリストアップしてもらうようにした。



おもちゃ総選挙の企画案を検討している様子

【ポイント】

- ・ 小学校就学前の幼児と小学生に対し、会場を2つに分けて発達段階に応じたメニューにした。
- ・ 6つのおもちゃはポスターにしておき、子どもが投票しやすいように年代により投票用紙を分けた。



子どもたちが投票している様子

【ポイント】

- ・ 子どもたちは楽しみながら参加しており、「選ぶこと」「周りとは相談すること」等の大切さを理解してくれている。
- ・ 児童館で子どもに体験してもらうことで、親子投票を啓発することにもつながっている。